

2024年2月13日

各 位

会 社 名 株式会社デジタルホールディングス
代表者名 代表取締役社長 野内 敦
(コード番号:2389 東証プライム市場)
電 話 0 3 - 5 7 4 5 - 3 6 1 1

当社取締役会の実効性に関する評価結果の概要について

当社グループは、「新しい価値創造を通じて産業変革を起こし、社会課題を解決する」というパーパスのもと、デジタルシフトによる産業変革 (= Industrial Transformation (IX)) を起こし、成長志向企業の発展に直結する「独自の仕組み」を提供することで、新しい価値創造に挑戦し、持続的な社会の実現を目指しております。このような中、当社は、2020年に商号変更、2021年12月期から2023年12月期を「DS イノベーション 2023」と題し、ポートフォリオ再整理を行い事業の変革に挑戦しながら、IX実現に向け、既存事業の持続的な成長に加え、中長期的な収益の拡大を進めております。

そのためにも、コーポレートガバナンスの充実は不可欠であり、コーポレートガバナンスに関する基本方針を制定し、取締役会の役割・責務等を規定するとともに、取締役会の実効性を分析・評価し、その結果について概要を開示することとしております。つきましては、昨年に引き続き、取締役会について実効性評価を実施いたしましたので、以下のとおりその結果の概要を報告いたします。

1. 評価方法

2023年度の取締役会の実効性評価の方法は、以下のとおりです。この評価方法に基づく結果により、現状分析を行い、今後の取組みを検討いたしました。

▶ 評 価 方 式 : 自己評価

(インタビュー及びアンケートにて実施。

質問ごとに4段階評価及び大項目ごとに任意でコメント。)

▶ 大 項 目 : 取締役会の役割・責務、取締役会の構成、取締役会の運営状況、
経営陣の選任・サクセッション、内部統制

▶ 評 価 者 : 全取締役

2. 評価結果の概要

各取締役による自己評価において、多くの評価項目で「十分できている」又は「概ねできている」との回答が高い割合を占め、特に、社外取締役の活用や自由闊達な議論ができる環境作りについて、高い評価となっております。また、以下の内容のコメントが多数あり、これらの結果を踏まえ、当社取締役会の実効性は、概ね適切に確保されていることを確認いたしました。

✓ 社外取締役が、自身の知識、専門性、経験等を踏まえた発言を積極的に行うことができる環境となっており、協議の結果、決議議案において否決又は付帯条件を付して承認する等、健全な

取締役会の運営体制が整えられている。

また、以下のコメントから、取締役会の実効性を更に向上させるための課題があることを確認いたしました。

- ✓ 議案数が多いことによって、経営戦略等の取締役会において多くの時間を割くべき議案について、議論時間が短くなってしまう傾向が見受けられた。取締役会で議論すべき議案の再精査、及び議案毎にメリハリ付けした時間設定を行うべきである。
- ✓ 他の会議体における結論の共有はあったが、その結論に至るまでの議論内容が十分に共有されておらず、また取締役会に提示される情報量が多く、各議案における論点や判断軸が不明瞭な中で、判断せざるを得ないことがあった。
- ✓ 中期経営計画の実現や企業価値向上のために、当社及び子会社においてそれぞれどのような人材が必要なのか、どのような後継者を育成すべきなのかについて、取締役会で議論を深化すべきである。

3. 評価結果を踏まえた取組み

当社取締役会は、本評価結果を踏まえ議論した結果、以下を課題として認識し、また、取締役会の実効性向上のための取組みを行います。

課 題：付議事項の最適化、他の会議体の情報共有の強化及び経営陣の選任・サクセッションに関する議論の深化

取組み①：取締役会への付議基準の見直しや取締役会で議論すべき議案の精査を管掌する取締役等が行う等の付議事項の最適化を行うことで、経営戦略等に関する議論を深める仕組みづくりを構築する。

取組み②：他の会議体の答申を経て、取締役会にて決議する議案においては、論点となり得る点やそれに対する意見を事前に把握するために、当該会議体の議事録を事前に共有する。

取組み③：取締役会による方針をもとに、指名・報酬委員会においてどのような人材を選任すべきか、どのような後継者を育成したいのか等の方針について議論を深化し、また、取締役会と指名・報酬委員会との役割を明確にすることで、当社グループ全体の人的資本経営の強化を図る。

今後も、当社取締役会は、当社グループの「新しい価値創造を通じて産業変革を起こし、社会課題を解決する」というパーパスの実現に向けて、今回の評価結果を踏まえた取組みに限らず、取締役会の実効性の維持・向上に引き続き取り組んでまいります。

以上